



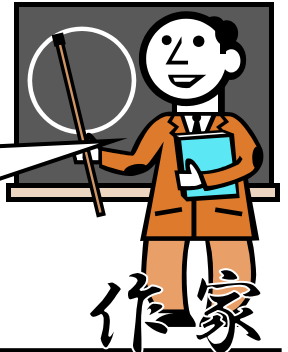
このお便りは、「キャリア教育」と「キャリア教育に関すること」について理解を深めるために作成しています。Q&A方式でお送りします。

「国語」はどんな仕事で生かされるの？



石田衣良（いしだいら）さん
作家。代表作に「池袋ウエスト
ゲートパーク」「4TEEN」
など。

それぞれの教科で学ぶことがどんな職業で生かされるのかについて書かれた本があります。その名も『5教科が仕事につながる！（ぺりかん社）』です。その中からいくつか紹介しましょう。



「いい文章っていうのはね、五感がいっぱいつまっている文章なんだ。たとえば何かを食べておいしかったとか、風が吹いて気持ちがいいとか、自分の感覚をたくさん入れると生きている感じが伝わって、たちまち作文がうまくなるよ。ただね、作家を本気で目指すなら、そうとうの覚悟は必要だよ。書くことが好きで、24時間小説のことを考えられる人じゃないと務まらない。でも、たとえ作家にならないとしても、これからの時代は国語の力がとても大事になってくると思うんだ。今後はモノを作る時代じゃなく、対人関係のサービスがメインになる時代だから、言葉の強い人がますます生き残っていく。だから、みんなには今のうちからたくさん本を読んだり、文章を書いたり、人と話したりして国語の力をグングン伸ばしていってほしいな。」



国語以外では何が大切ですか？

作家はふつうの人が見逃してしまうことを「これはおもしろい！」「もっと知りたい！」と思って書き始める。だから好奇心や探究心をもっていることはとても大切なことだ。また書き続ける意思の強さや持続力も必要だ。

ゲームクリエイター



小川陽二郎（おがわようじろう）さん ゲームクリエイター
セガ「ソニックと秘密のリング」を担当。



「企画書や脚本以外にもゲームの画面上に出てくる言葉を書いたり、メールでプロジェクトのメンバーに仕事を依頼したりと、文章を書く機会がとても多いんです。国語の力をみかいたら、僕たちはすごくいい仕事ができるんですよ。本を読んだり、映像を見たりして、ただ『おもしろかった』と感想を言う人はクリエイターの道には遠いと思うんです。なんでおもしろいのか、どこがおもしろいのか言えないと、いいゲームは作れない気がするから。たとえば『ハリー・ポッター』シリーズとか1冊きわめてみるのもいいと思う。主人公がどのタイミングで出てきて、お話がどう展開していくのか。そうするとなぜこの本がおもしろいのか法則がわかるし、自分の興味のあることを掘り下げ、解析していったら、きっとおもしろさの本質が見えてくるはず。それがクリエイターの第一歩なんじゃないかと思いますね。」

国語以外では何が大切ですか？

特にゲームの企画をする人は豊かな発想力が、ソフトを解説する人はプログラミングなどの技術力が必要だ。いちばん大切なのは「人を楽しませたい」という思い。それがとことんおもしろいものを作ろうとする原動力になる。